

登録コード	MA751217	開講年度	2026				
授業科目名	病因・病態検査学特別研究（生体）					担当教員	松田 和之
英文授業名	Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation					副担当	
単位数	10	講義期間	通年	曜日・時限	不定期	対象専攻／学年	病因・病態検査学領域／2年次
講義室				授業形態	演習	授業科目区分	必須科目
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄ MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学) 【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 ⇄ 遺伝子からタンパクレベルまでの分子の質・量の変化を解析し、病態について基礎的かつ臨床的な視点での理解ができるようになる。						
(2)授業の概要	研究概要は、①培養細胞を用いた細胞間分子の解析、②リコンビナントタンパクを用いた強制発現系あるいはsiRNA技術を用いた発現抑制系による分子間相互作用の解析、③遺伝子変異解析、④タンパク解析（ウェスタンブロッティング、フローサイトメトリー、免疫組織化学染色）などの一連の解析手法を用いて、分子細胞生物学的観点から研究を行う						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	研究課題の意義を理解し、①研究計画の立案、②計画に従った研究の遂行、③結果のまとめと考察、④計画の見直しの一連を通して、論理的思考力と研究実践力を修得することができるようになる。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOS）	① 2年次前期には、得られた結果について学会発表を行うことができるようになる。 ② 2年次後期には、総合的に結果を考察し、研究テーマを発展させ、修士論文をまとめることを目標とし、可能であれば海外専門雑誌に投稿することにより、情報発信を行うことができるようになる。						
(5)授業計画	開講日時は受講学生と検討のうえ決定する。 ① 研究テーマに沿った参考文献の収集と調査、予備実験データ等を踏まえた実験計画の立案 ② 実験計画に従った研究の遂行 ③ 得られた結果のまとめと考察 ④ 実験計画の見直しや関連分野との関連性を考察 ①～④の過程を繰り返しながら、研究テーマについて理解と知見を集める。 さらに、その成果は、積極的に学会発表し、意見交換を行う。それらを踏まえて、最終的に修士論文をまとめる。						
(6)授業の進め方	1年次初期に研究テーマを設定し、関連する参考文献を基に、実験計画を立てる。その後、実験計画に従って、順次、実験を行い、結果を解析し、考察を行う。さらに、総合的に、実験計画の見直し等を行う。						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	事前学習：研究実施の前に、関連論文を検索し、内容を理解する。疑問点・課題を見出す。 事後学習：研究結果について、関連論文との比較を通して、考察を行い、次の研究計画、方針の見直しを行う。						
(8)成績評価の方法	レポートの内容、結果のプレゼンテーションやまとめ方、結果に対する考察内容についてを総合的に評価する。						
(9)成績評価の基準	(i)問題の設定が適切である。(ii) その問題の背景を説明できている。(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できている。(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できている。(v)その上で自分の見解を提示できている。(vi)教員を感心させるレベルにある。(i)から(vi)の6項目を満たしていれば「卓越している(秀)」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」、4項目までできていれば「やや上にある(良)」、3項目までできていれば「合格水準にある(可)」						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	個別の相談は、事前の連絡(e-mail :kmatsuda@shinshu-u. ac.jpまたは内線3533)によって随時、対応する。						
【テキスト，教材，参考書】	特に指定なし。						